

詩篇119篇89-176節「主の教えを愛する者」

1A ל ראמד 御言葉の堅い定め 89-96

2A נ נעם 戒めによる弁え 97-104

3A י יאן 道の光たる御言葉 105-112

4A ו ושמך 二心への憎しみ 113-120

5A ז זאין 幸いの保証 121-128

6A ח חפ 戸から差し込む光 129-136

7A ט טאדער 真実な義 137-144

8A ק קוף 呼び求め 145-152

9A ר רש 生かす御言葉 153-160

10A ש שין 君主の前での平和 161-168

11A ת תא 御言葉による賛美 169-176

本文

詩篇 119 篇 89 節から、私たちは読んでいきます。詩篇 119 篇は、アクロスティック詩篇の代表的な一つです。ヘブル語のアルファベットがそれぞれの文の頭に来ており、これを暗誦するのを手助けします。そして、主の御言葉を慕い認めることができるように、主の御言葉自体が 119 篇の主題です。後半部分は、特に「主の教えを愛します」という、愛するという言葉が数多く出てきます。私たちが清い心で、主の御言葉を愛しているように、ここの箇所を読んで変えられていきたいと願います。

1A ל ראמד 御言葉の堅い定め 89-96

89 節から 96 節は、ヘブル語の L を表す「ラメド」という文字から始まる区分です。

119:89 主よ。あなたのことばは、とこしえから、天において定まっています。119:90 あなたの真実は代々に至ります。あなたが地を据えたので、地は堅く立っています。119:91 それらはきょうも、あなたの定めにしたがって堅く立っています。すべては、あなたのしもべだからです。

主の言葉がいかに堅く、定まっているかを教えてくれています。天というものも、地も私たちは堅く定められたものとして、日々、実感しています。これらが、私たちが手にしているこの聖書、神の言葉によって定まっています。主がご自分の言葉によって天を造られ、地上も御言葉で立てられました。そして造られただけでなく、この秩序のまま支えているのも、主の定めによります。

119:92 もしあなたのみおしえが私の喜びでなかったら、私は自分の悩みの中で滅んでいたでしょう。119:93 私はあなたの戒めを決して忘れません。それによって、あなたは私を生かしてください

たからです。

天と地を造り、それらを堅く定めている同じ言葉をもって、自分が生かされていることをここで述べています。ですから、たとえ悩んでいても、主の教えを喜んでいれば、これを忘れないでいれば、滅びることなく生きることができると言っています。

119:94 私はあなたのもの。どうか私をお救いください。私は、あなたの戒めを、求めています。  
119:95 悪者どもは、私を滅ぼそうと、私を待ち伏せています。しかし私はあなたのさとしを聞き取ります。

私たちは、霊の戦いの中にいます。悪魔が、獅子のようにうろつきながら、私たちを滅ぼそうとしています。けれども、「聞き取」るのです。ただ漫然と聞くのではなく、聞き取ります。いろいろな音や声がしている中で、神の諭しのみを聞き取ります。そして、それをすることができるように主はしてくださっています。イエス様が羊飼いで、羊を盗もうとする者がいても、羊は羊飼いの声を聞いて付いていく、他の人には決して付いていかないと言われました(ヨハネ 10:1-5)。

119:96 私は、すべての全きものにも、終わりのあることを見ました。しかし、あなたの仰せは、すばらしく広いのです。

私たちはいつも青空を見て、この世にある思い煩いから解放される必要がありますね。その天を造られたのは神であり、その言葉によって私たちは生きているからです。どの時代になっても、天は変わることがありません。他のものはいかに全きものだと思われても終わりが来ます。しかし天はいつもそこにあります。その天をそのように立たせているのは、主の言葉であります。地上もそうですね。伊能忠敬でしょうか、日本地図を初めて正確に描いた人で江戸時代に生きていましたが、彼の描いた地図を見ると今の日本の地形と何ら変わることはありません。けれども、江戸幕府はなくなり、明治政府もなくなり、今は平成の時代です。

ですから、主の仰せに聞き従うことはすばらしく広いです。その道は狭く感じることもあるでしょう。確かにイエス様は、「狭い門から入りなさい」と命じられました。けれども、狭い門から入れば、その後は広い、平らなところが用意されています。ノアが箱舟を造り、その中に入って一年以上いたけれども、その後に新世界ができる。そのような広がりがあります。

## **2A n メム 戒めによる弁え 97-104**

97 節から 104 節は、M を表すヘブル語「メム」から始まります。

119:97 どんなか私には、あなたのみおしえを愛していることでしょうか。これが一日中、私の思いとなっています。119:98 あなたの仰せは、私を私の敵よりも賢くします。それはとこしえに、私のも

のだからです。119:99 私は私のすべての師よりも悟りがあります。それはあなたのさとしが私の思いだからです。119:100 私は老人よりもわかまえがあります。それは、私があなたの戒めを守っているからです。

午前礼拝の説教箇所ですが、主の教えは弁えを与えてくれます。主のものとされた民は、いつも戦いがあります。敵からの攻撃があります。敵は策略を持っていますが、主の仰せはさらに賢い知恵を与えてくれます。ゆえに、次のことをすることができます。

119:101 私はあらゆる悪の道から私の足を引き止めました。あなたのことばを守るためです。

119:102 私はあなたの定めから離れませんでした。それは、あなたが私を教えられたからです。

敵は悪の道へ私たちを誘い込みます。けれども、「私の足を引き止めました」ということができます。そのようなことはありませんか、途中まで歩いたけれども、「この道に行ってはならない」として足を引き止めたということはありませんか？弁えが与えられます。そして定めから離れなかったと言っていますが、「あなたが私を教えられたからです」と言っています。その時に、その瞬間に主が聖霊によって、私たちを教えてください。聖霊は、私たちにイエス様の言われたことを教え、それらを思い起こさせてくださいます(ヨハネ 14:26)。

119:103 あなたのみことばは、私の上あごに、なんと甘いことでしょう。蜜よりも私の口に甘いのです。119:104 私には、あなたの戒めがあるので、わかまえがあります。それゆえ、私は偽りの道のことごとく憎みます。

いかがでしょうか、私たちは御言葉をこのように慕っているでしょうか。聖書を蜜よりも口に甘いものとして愛しているでしょうか。私はそんなに甘いものが好きではありませんが、好きな人たちの顔を見ると、ここで言っている言葉の意味が分かります。

そして、主の御言葉を愛することは、同時に、真理ではない偽りの道を憎みます。これは、感情の話ではなく、絶対真理のことです。1足す1は2であるけれども、3では絶対にないという意味です。2であって3ではないと絶対的に話すのが、憎むことです。私たちは、こうした偽りへの憎しみを持たせないようにする、ものすごい圧力をかける社会の中に生きています。相対主義です。絶対真理を語るから偏狭であり、憎しみに満ちるのだと言う社会に生きています。しかし真逆です。絶対真理があるからこそ、心を広くできます。キリストこそが道であり、真理であり、命です。この方を愛するからこそ、他者を愛し、心を広くすることができるのです。騙されてはいけません。

### **3A 1 ヌン 道の光たる御言葉 105-112**

105 節から 112 節までは、N に当たるアルファベット「ヌン」で始まっています。

119:105 あなたのみことばは、私の足のともしび、私の道の光です。119:106 私は誓い、そして果たしてきました。あなたの義のさばきを守ることを。

御言葉が、暗闇の中にある灯であり、道の光であると言っています。これは世が暗闇であることを示しています。「1ヨハネ 5:19 私たちは神からの者であり、全世界は悪い者の支配下にあることを知っています。」したがって、神の民とされた者たちは、世の流れに逆らっても神の義の裁き、すなわち正しい判断を守るのです。

その典型例が、ダニエルとその三人の友人でしょう。彼らは、バビロンにおいて英才教育を受けました。そこには異教の本拠地であり、あらゆる忌まわしい、淫らな文化がありました。しかし、彼らはその中にいながらにして、主の戒めを聞き分けました。バビロンの文学などを学び、自分たちの名前さえバビロンの神の名の入っているものに変えられましたが、王の食べるごちそうを食べることを決してしないと心に決めたのです。その肉が異教の神に捧げられていたのでしょうか、あるいは、レビ記 11 章に定められている食物規定に違反していたのかもしれませんが。世の汚れに汚されることなく、主の戒めを守る聖めが与えられていたのです。

119:107 私はひどく悩んでいます。主よ。みことばのとおり私を生かしてください。119:108 どうか、私の口の進んでささげるささげ物を受け入れてください。主よ。あなたのさばきを私に教えてください。

主の戒めから離れることのないように、願いを立てています。一つ、ひどく悩んでいる時、御言葉が自分を生かすように願っています。そしてもう一つ、口で進んで捧げる物とは誓いの言葉だと思いますが、私たちキリスト者は感謝や賛美のいけにえを主に對して捧げることができます。それをするのは、主の言葉を教えられるからです。賛美が好きで、聖書を読むのが嫌いだということはありません。主の言葉の真理を愛しているからこそ、賛美を求めます。

119:109 私は、いつもいのちがけでいなければなりません。しかし私は、あなたのみおしえを忘れません。119:110 悪者は私に対してわなを設けました。しかし私は、あなたの戒めから迷い出ませんでした。

「いつもいのちがけ」というのは、命が危険に晒されているような時のことです。それでも御教えを忘れません。そうですね、礼拝中に大地震が起こったとしたら、礼拝を中断して避難しなければいけません。また日常で、生きるためにしなければいけないこと、生活に対する責任があります。けれども、それらのことに熱心であるばかりに主の教えを忘れがちです。それをしません、という誓いを持っています。また、そうして必死に生きている時に敵は虎視眈々と、私たちが彼の罠にかかることを狙っています。けれども、主の戒めから迷いませんと言っています。

119:111 私は、あなたのさとしを永遠のゆずりとして受け継ぎました。これこそ、私の心の喜びです。119:112 私は、あなたのおきてを行なうことに、心を傾けます。いつまでも、終わりまでも。

「永遠のゆずり」と強調しています。先ほど読んだように、すべての全きものにも終わりが来ます。しかし主の言葉は永久に堅く立ちます。そして、「終わりまでも」神の掟に心を傾けると言っています。神が良い働きを私たちの内に始めてくださった時は、それは興奮し、喜びに満ちています。しかし、真の喜びは終わりまでその確信を保っていることです。

#### **4A o サメク 二心への憎しみ 113-120**

113 節から 120 節までは、S を表す「サメク」から始まります。

119:113 私は二心の者どもを憎みます。しかし、あなたのみおしえを愛します。

これまで詩篇 119 篇の著者が語ってきたことは、この言葉に集約されます。主の御教えを愛しているがゆえ、二心になることを避けています。二心にならないために、いかに気をつけているかそれを語ってきました。ヤコブが手紙で、「4:8 二心の人たち。心を清くしなさい。」と言いました。二心の人、主を愛していないとは言いません。そうではなく、主を愛していますと言いながら、世も愛していることです。しかし、それを主が忌み嫌われるのは明らかです。男女関係の中でも「二股」が、その関係を最も壊す原因になります。神との関係ではなおさらのことです。イスラエルの王アハブの時代に、その民はヤハウエに仕えながら、バアルにも仕えていました。それでエリヤが彼らに挑戦しました。「1列王 18:21 あなたがたは、いつまでどっちつかずによろめいているのか。もし、主が神であれば、それに従い、もし、バアルが神であれば、それに従え。」どちらかにしなさい、と言っています。

119:114 あなたは私の隠れ場、私の盾。私は、あなたのみことばを待ち望みます。119:115 悪を行なう者どもよ。私から離れて行け。私は、わが神の仰せを守る。119:116 みことばのとおり私をささえ、私を生かしてください。私の望みのことで私をはずかしめないようにしてください。119:117 私をささえてください。そうすれば私は救われ、いつもあなたのおきてに目を留めることができますよう。

心一つにして主を恐れることには、絶えずリスクが伴います。世にあるもの、自分の持っているものを失うというリスクがあります。それで「あなたは私の隠れ場、私の盾」と祈っています。人や他のものが守ってくれるようにするのではなく、主ご自身が自分を守ってくださるように祈っています。御言葉によって自分を生かしてほしい、また望みのことで辱めを受けることがないようにしてほしい、また支えてほしいと祈っています。つまり、主のみが頼るべき方と告白しています。

119:118 あなたは、あなたのおきてから迷い出る者をみな卑しめられます。彼らの欺きは、偽りご

とだからです。119:119 あなたは、地上のすべての悪者を金かすのように、取り除かれます。それゆえ私は、あなたのさとしを愛します。119:120 私の肉は、あなたへの恐れで、震えています。私はあなたのさばきを恐れています。

世を愛する者の行き先を彼は知っています。世を愛する者は、世と共に滅びるという定めです。「2ペテロ 3:10-11 しかし、主の日は、盗人のようにやって来ます。その日には、天は大きな響きをたてて消えうせ、天の万象は焼けてくずれ去り、地と地のいろいろなわざは焼き尽くされます。このように、これらのものはみな、くずれ落ちるものだとすれば、あなたがたは、どれほど聖い生き方をする敬虔な人でなければならないことでしょう。」

### **5A ヽ アイン 幸いの保証 121-128**

121 節から 128 節は、「アイン」というヘブル語の文字から始まります。

119:121 私は公正と義とを行ないました。私をしいたげる者どもに私をゆだねないでください。  
119:122 あなたのしもべの幸いの保証人となってください。高ぶる者どもが私をしいたげないようにしてください。119:123 私の目は、あなたの救いと、あなたの義のことばとを慕って絶え入るばかりです。

これは、主が語られた「義に飢え渴いている者は幸いです。その人は満ち足りるからです。(マタイ 5:6)」という言葉そのものです。私たちが自分の貧しさを知り、罪を悲しみ、それで神の憐れみを受けたならば、神の義がこの地上でなされることを切望します。それが叶えられるのは、主が戻って来られる時でありますが、それまでの間、絶えず世との確執の中に自分を入れていることとなります。それでその間、あなたが私の保証人となってください、と願い求めているのです。事実、キリストは神の右の座で、私たちのために執り成しをしてくださっています(ローマ 8:34)。そして、内におられる御霊は、言いようもないゆめきによって私たちのために執り成しをしておられます(26 節)。私たちが御父の前に立つことができるように、保証してくださっているのです。

119:124 あなたの恵みによってあなたのしもべをあしらってください。私にあなたのおきてを教えてください。119:125 私はあなたのしもべです。私に悟りを授けてください。そうすれば私は、あなたのさとしを知るでしょう。

主の義が行われるのを待ち望んでいる間、自分は「しもべ」として主に仕えている姿勢を取っています。しもべというのは、全てのことを主に判断を任せている者であります。むしろ、主の語られていることに集中し、それを悟って行なうことを眼目としています。パウロは、自分や他の教会奉仕者を批評しているコリントの人たちに対して、自分たちはキリストの僕であると言った上で、こう言いました。「1コリント 4:5 ですから、あなたがたは、主が来られるまでは、何についても、先走ったさばきをしてはいけません。主は、やみの中に隠れた事も明るみに出し、心の中のはかりごと

明らかにされます。そのとき、神から各人に対する称賛が届くのです。」

119:126 今こそ主が事をなさる時です。彼らはあなたのおしえを破りました。119:127 それゆえ、私は、金よりも、純金よりも、あなたの仰せを愛します。119:128 それゆえ私は、すべてのことについて、あなたの戒めを正しいとします。私は偽りの道をことごとく憎みます。

主の御心を著しく損ねている者たちの姿を見る時に、なおのこと主の愛に満たされて、心が燃やされている姿です。金や純金よりも主の仰せを愛して、全てのことについて戒めを正しいとしています。偽りがはびこることで、意気消沈したり、沈黙するのではなく、ますます大胆になっています。

ネブカデネザルに対するダニエルの三人の友人のことを思います。彼らが金の像の前でひれ伏さなかったので、王は怒りたけりました。けれども、冷静になって彼らにもう一度、チャンスを与えます。本当に拝まないのかと問い質し、もし拝まないなら燃える火の炉に投げ込まれると警告しました。三人が答えました。「ダニエル 3:16-18 私たちはこのことについて、あなたにお答えする必要はありません。もし、そうなれば、私たちの仕える神は、火の燃える炉から私たちを救い出すことができます。王よ。神は私たちをあなたの手から救い出します。しかし、もしそうでなくても、王よ、ご承知ください。私たちはあなたの神々に仕えず、あなたが立てた金の像を拝むこともしません。」

## **6A 9 ペ 戸から差し込む光 129-136**

129 節から 136 節は、英語の P に当たる「ペ」から始まる区分です。

119:129 あなたのさとしは奇しく、それゆえ、私のたましいはそれを守ります。119:130 みことばの戸が開くと、光が差し込み、わきまえのない者に悟りを与えます。119:131 私は口を大きくあけて、あえぎました。あなたの仰せを愛したからです。

主の御言葉を慕い求めている姿です。「奇しい」というのは、主のなさること、その計画や御心があまりにも高く、深く、驚いていることを示しています。私たちの理解を超えたところにある、主の御思いです。そして、「御言葉の戸」が開かれます。これを私たちは絶えず、願い求めていますね。聖書を理解するのは、専ら聖霊の働きに拠ります。(1コリント 2:13-14)

そして口を大きく開けて、御言葉を喘いでいるその姿は、主が語られたとおりにそれを行ってくださるかどうかが、信仰をもって待ち望んでいる姿であります。ちょうど親鳥が餌を運んでくるのを待っているひな鳥のように、です。ジョージ・ミュラーは、この聖書の箇所が与えられて、孤児院の経営の必要を神が満たしてくださる方法を見つけました。日々の孤児を助けるのに必要な膨大な費用が、必ず満たされていったことを彼は証ししています。

119:132 御名を愛する者たちのためにあなたが決めておられるように、私に御顔を向け、私をあ

われんでください。119:133 あなたのみことばによって、私の歩みを確かにし、どんな罪にも私を支配させないでください。119:134 私を人のしいたげから贖い出し、私があなたの戒めを守るようにしてください。119:135 御顔をあなたのしもべの上に照り輝かし、あなたのおきてを教えてください。

主の御言葉の悟りが与えられるよう求めている中で、主を愛し、また主ご自身の好意を求めます。主との愛の関係とその戒めとは切っても切り離せません。主が弟子たちに言われました。「ヨハネ 14:21 わたしの戒めを保ち、それを守る人は、わたしを愛する人です。わたしを愛する人はわたしの父に愛され、わたしもその人を愛し、わたし自身を彼に現わします。」「御顔を向ける」というのは、「御顔を背ける」の反対語です。背けるのは、私のしていることが忌まわしいとみなし、それから背けているのですが、御顔を向けるのは私自身に好意を抱き、祝福してくださっている姿です。

主の御顔が向けられている中で、彼は二つのことを願っています。一つは、自分が罪に支配されないこと、罪から自由にされていることです。もう一つは、主ご自身のみの僕となり、他の人々の僕とならないということです。人を恐れたり、また人の定めた掟に縛られたりするのではなく、キリストにあって自由とされます。(ガラテヤ 5:1)

119:136 私の目から涙が川のように流れます。彼らがあなたのみおしえを守らないからです。

主との愛の関係に入っている時は、必ず心は他者に向かいます。主の御言葉を喜んでいるのに、御言葉とは関係のない生活をしている人々のことを重荷に感じないのであれば、神の愛ではなく自分の愛に依然として留まっています。まだ罪の中にいる人々のことを泣き、その人が立ち返ることを願います。また、立ち返ったら神の恵みによって成長することを願うのです。

## **7A ヌ ツァデー 真実な義 137-144**

137 節から 144 節は、「ツァデー」というヘブル語の文字から始まります。

119:137 主よ。あなたは正しくあられます。あなたのさばきはまっすぐです。119:138 あなたの仰せられるさとしは、なんと正しく、なんと真実なことでしょう。119:139 私の熱心は私を滅ぼし尽くしてしまいました。私の敵があなたのことばを忘れていたからです。119:140 あなたのみことばは、よく練られていて、あなたのしもべは、それを愛しています。

ここの「正しくあられます」が、これが「ツァディク」となっています。元々は「まっすぐ」という意味です。主の仰せがなんと、まっすぐなのだろう、曲がっていないと感動しています。一見、難解で、人間的な考えでは曲がっているとさえ感じます。けれども、実はよく練られていて、正しくて、真実なことを神は教えておられるのです。



パウロは、メシヤを待ち望んでいたユダヤ人の大勢がどうしてメシヤなるイエスを拒んだのか、そのことを神の主権と憐れみから論じました。そこには、ユダヤ人だけでなく異邦人も含めた全てを救おうとする計画があるのを悟り、圧倒されました。「ローマ 11:33 ああ、神の知恵と知識との富は、何と底知れず深いことでしょう。そのさばきは、何と知り尽くしがたく、その道は、何と測り知りがたいことでしょう。」そして、十字架に付けられたキリストを宣べ伝えることは世にとっては愚かに見えるかもしれないけれども、世の賢者よりもさらに賢いことを教えています(1コリント 2:25)。

139 節の「私の熱心が私を滅ぼし尽した」という言葉ですが、69 篇 9 節に「あなたの家を思う熱心が私を食い尽くす」とあります。イエス様が宣教の初めに宮清めをされた時にヨハネが福音書で引用した御言葉です。神の言葉のゆえにそれを守らない者たちを見て、その熱心でご自身を燃え尽きさせるぐらいの熱さが、その宮清めを駆り立たせたのです。

119:141 私はつまらない者で、さげすまれています。しかし、あなたの戒めを忘れてはいません。  
119:142 あなたの義は、永遠の義、あなたのみおしえは、まことです。119:143 苦難と窮乏とが私に襲いかかっています。しかしあなたの仰せは、私の喜びです。119:144 あなたのさとしは、とこしえに義です。私に悟りを与えて、私を生かしてください。

たとえ自分が蔑まれていても、苦難と窮乏が襲っても一向に構わないとしています。なぜなら、それらは一時的であり、神の義は永久だからです。こんなにも御言葉は正しく真実なのだから、こちらに思いを寄せて、一時的な苦難は甘んじて受けますという態度です。黙示録で、世の権力と富を示していた大きな都バビロンが、一気に崩壊します。その都では聖徒たちが殺され、血を流していました。けれどもバビロンが滅んだ時に、天においては、群衆が叫びました。「神のさばきは正しくて、真実である。(黙示 19:2)」主の義のゆえに、今の苦難を耐え忍ぶのです。

## **8A 7 コフ 呼び求め 145-152**

145 節から 152 節は、「コフ」というヘブル語の文字です。

119:145 私は心を尽くして呼びました。主よ。私に答えてください。私はあなたのおきてを守ります。  
119:146 私はあなたを呼びました。私をお救いください。私はあなたのさとしを守ります。119:147 私は夜明け前に起きて叫び求めます。私はあなたのことばを待ち望んでいます。119:148 私の目は夜明けの見張りよりも先に目覚め、みことばに思いを潜めます。

主を呼び求める祈りです。その呼び求めが切実になっており、147 節は「叫び求める」となっています。それは夜明け前に起こすほどのものであったようです。夜明け前に、主の御言葉に思いを潜めて、それで叫び求めています。私は非常に苦手なのですが、ここの箇所を読むと韓国の早天祈禱会を思います。午前五時から始まる教会は多いです、それよりも前から始める所もあります。

私たちはどうしても、「他人に迷惑をかけるから、大きな声で騒ぐのはよしなさい」という教育を受けてきました。素直に呼び求めることははしたないと教えられてきました。けれども、韓国に限らず中東はさらに、感情豊かに自分の思いを表現します。これはちょうど、母親に子どもが呼びかけるのと同じです。これと同じように主に呼び求めることができるでしょうか。ペテロが、水の上を歩かれていたイエス様に呼ばれて、水の上を歩きましたが、風を見てしまい沈みかけました。「主よ、助けてください。」と叫びました。こうした素直な呼び求めが必要です。

119:149 あなたの恵みによって私の声を聞いてください。主よ。あなたの決めておられるように、私を生かしてください。119:150 悪を追い求める者が近づきました。彼らはあなたのみおしえから遠く離れています。119:151 しかし、主よ。あなたは私に近くおられます。あなたの仰せはことごとくまことです。119:152 私は昔から、あなたのあかしで知っています。あなたはとこしえからこれを決めておられることを。

「あなたの決めておられるように、生かしてください」と祈り、また「昔から、あなたのあかしで知っています。」と言っています。主が前々からご自分を呼び求める者を生かしてくださいます。だから、確信をもって近づいています。主は、キリストの内にある者を予め知っておられ、それで選ばれ、私たちがご自身を呼び求めるのを待っておられます。主は弟子たちに言われました。「まして神は、夜昼神を呼び求めている選民のためにさばきをつけないで、いつまでもそのことを放っておかれることがあるでしょうか。(ルカ 18:7)」

#### **9A ヽ レシ 生かす御言葉 153-160**

153 節から 160 節は、R に当たる「レシ」が文頭に来る区分です。先ほどは主を呼び求める祈りでしたが、ここでは主の御言葉によって私を生かしてくださいという願い求めです。

119:153 私の悩みを顧み、私を助け出してください。私はあなたのみおしえを忘れません。119:154 私の言い分を取り上げ、私を贖ってください。みことばにしたがって、私を生かしてください。119:155 救いは悪者から遠くかけ離れています。彼らがあなたのおきてを求めないからです。

「生かしてください」という言葉は、英語では"Revive"であります。いわゆるリバイバルのことを指します。多くの日本の教会でリバイバルという言葉を使っていますが、それは多くの人がたくさんイエス様を信じてくださいますように、という祈りに言い換えることができるでしょう。けれども、聖書で言っているリバイバルは意味合いが違います。むしろ、既に主を信じていたけれども、その生き生きとしたつながりが薄れてきてしまっている時に、主に立ちあがってその命ある関係を取り戻すことを意味しています。「霊的復興」という言葉を使ったほうがよいでしょう。

主にあって生かされるためには、先にありましたように、祈り求め、叫び求める必要があります。そして、祈り求め、叫び求めるためには条件があります。それは「悩み」があることです。今の状況

に対して不満足です。この状況では、自分ややっていけない。これではいけない。私の内には力がない、知力も気力もない。ただ主に戻らなければいけないと悟るのです。リバイバルは、他にいくべきところがない、ただ主のみが逃れの道だということを悟った時に始まります。

そしてリバイバルには、必ず神の言葉があります。「みことばにしたがって、私を生かしてください。」と言っています。主の御言葉こそが、私たちに自分の貧しさを教えてくれます。自分には良いものが何もないという現実を知らせてくれます。主の御言葉がまっすぐに語られる中で、私たちの内に霊的渇きが起こり、悔い改めて主のほうに向くのです。思い出すが、預言者サムエルの時代です。サムエルは主の言葉を語り続けました。そして、神の箱がキルヤテ・エアリムに留まって二十年の歳月が費やされた後に、彼らは自分たちの状態を嘆いていました。それでサムエルが言いました。「1サムエル 7:3-4 『もし、あなたがたが心を尽くして主に帰り、あなたがたの間から外国の神々やアシュタロテを取り除き、心を主に向け、主にのみ仕えるなら、主はあなたがたをペリシテ人の手から救い出されます。』そこでイスラエル人は、パアルやアシュタロテを取り除き、主にのみ仕えた。」

119:156 あなたのあわれみは大きい。主よ。あなたが決めておられるように、私を生かしてください。119:157 私を迫害する者と私の敵は多い。しかし私は、あなたのさとしから離れません。119:158 私は裏切る者どもを見て、彼らを忌みきらいました。彼らがあなたのみことばを守らないからです。119:159 ご覧ください。どんなに私があるあなたの戒めを愛しているかを。主よ。あなたの恵みによって、私を生かしてください。

生かしてくださいとさらに二度、祈っていますが、初めは「あなたのあわれみは大きい」と言い、次に「あなたの恵みによって」生かしてくださいと祈っています。私たちの祈りが聞かれるのは、私たちが正しいからではなく、専ら神の憐れみによります。「事は人間の願いや努力によるのではなく、あわれんでくださる神によるのです。(ローマ 9:16)」私たちが正しくないからこそ、むしろへりくだって、自分には何もないことを告白しながら、祈り求めるのです。そして神の憐れみを確信したなら、次は神の恵みを願い求めます。憐れみは受けるべき裁きを受けなくてよい神の取り計らいですが、恵みは受ける資格のない祝福を受けることのできるようになる、神の好意です。

119:160 みことばのすべてはまことです。あなたの義のさばきはことごとく、とこしえに至ります。

すぐれた信仰告白です、「みことばのすべてはまことです」と言っています。御言葉の一部が真理なのではなく、全体が、全部が真理なのです。この部分は真理であるが、他の部分はそうではないという態度を私たちは取るのでしょうか？いいえ、どの部分も主の語られたことであり、全面的に受け入れます、全てを受け入れますということで、初めて神が正しいことを認めるのです。一部分を受け入れて他がそうではないとするならば、自分が正しいとすることになります。

## 10A ウ シン 君主の前での平和 161-168

161 節から 168 節までは、ヘブル語で「シン」という文字から始まるものです。

119:161 君主らは、ゆえもなく私を迫害しています。しかし私の心は、あなたのことばを恐れています。119:162 私は、大きな獲物を見つけた者のように、あなたのみことばを喜びます。119:163 私は偽りを憎み、忌みきらい、あなたのみおしえを愛しています。119:164 あなたの義のさばきのために、私は日に七度、あなたをほめたたえます。119:165 あなたのみおしえを愛する者には豊かな平和があり、つまずきがありません。

これは驚くべき言葉です。君主がこの著者を迫害しています。しかし、彼は君主を恐れるよりも、なおのこと神の言葉を恐れています。イエス様が弟子たちに語られたことを思い出します。「そこで、わたしの友であるあなたがたに言います。からだを殺しても、あとはそれ以上何もできない人間たちを恐れてはいけません。恐れなければならない方を、あなたがたに教えてあげましょう。殺したあとで、ゲヘナに投げ込む権威を持っておられる方を恐れなさい。そうです。あなたがたに言います。この方を恐れなさい。(ルカ 12:4-5) 主を正しく恐れるならば、人を恐れることはなくなります。そして、正しい判断を下すことができます。

そして著者の心の中には、喜びと賛美、また平和が満ちあふれています。主の御言葉をここまで愛して、宝物にしているならば、私たちが敵の前にいたとしても、喜びと賛美、また豊かな平安があるということです。

119:166 私はあなたの救いを待ち望んでいます。主よ。私はあなたの仰せを行なっています。119:167 私のたましいはあなたのさとしを守っています。しかも、限りなくそれを愛しています。119:168 私はあなたの戒めと、さとしを守っています。私の道はすべて、あなたの御前にあるからです。

「待ち望む」という言葉にはヘブル語が二つあるそうです。ヤハルというのが、普通使われる「待ち望む」の言葉で、それは将来なされる神の善を信じて、今日を生き抜く力を持たせる待ち望みです。もう一つあり、サヴァルです。初めに「シン」という文字が使われていますが、これがここで使われている言葉です。これは、「次に来ることのために、用意周到に準備して備える」という待つ、ということだそうです。ただ口を開けて待っているのではなく、それが来る時に合わせて自分を整えます。私たちは、来年のイスラエル旅行のためにすでに二回、集会を持ちました。準備のために合計五回の集まりを設けます。そして、たくさん祈ってもらいます。それによって聖地旅行に備え、待ち望むのです。

それが「サヴァル」という言葉の意味であり、彼は今、主の救いの用意をしているのです。ちょうど、主の到来のために十人の乙女のうち、五人の賢い乙女が油を用意していたのと同じです。私

私たちは来るべき、大いなる祝福、私たちの救い主であり神であるイエス・キリストを、このような備えをもって待ち望んでいるでしょうか？

#### 11A n タウ 御言葉による賛美 169-176

そして最後の区分は、アルファベットの最後「タウ」から始まる文章です。

119:169 私の叫びが御前に近づきますように。主よ。みことばのとおり、私に悟りを与えてください。119:170 私の切なる願いが御前に届きますように。みことばのとおりに私を救い出してください。119:171 私のくちびるに賛美がわきあふれるようにしてください。あなたが私にみおきてを教えてください。119:172 私の舌はあなたのみことばを歌うようにしてください。あなたの仰せはことごとく正しいから。

これまでの箇所にあった、叫び求め、また切なる願いがありますが、その後に出てくるのが賛美であり、そして賛美の歌であります。賛美は、主の御言葉を愛し尽くして、その結果として心から湧き上がってくるものです。反対に言うと、主の御言葉を知ることによって知識だけがが増えて、心に主を人格的に知る感動がなければ、正しい読み方をしているのではありません。

そして興味深いのは、「みことばを歌う」というところです。多くの賛美の歌は、その歌詞自体が御言葉そのものであったりします。それは実に正しいことです。主の言葉を、メロディーを付けて歌うのです。そのことによって主の言葉に親しむのです。このようにキリストの御言葉と賛美の歌は密接に結びついています。それがコロサイ書 3 章 16 節に賛美についての言及があります。「コロサイ3:16 キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住まわせ、知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め、詩と賛美と霊の歌とにより、感謝にあふれて心から神に向かって歌いなさい。」

119:173 あなたの御手が私の助けとなりますように。私はあなたの戒めを選びました。119:174 私はあなたの救いを慕っています。主よ。あなたのみおしえは私の喜びです。119:175 私のたましいが生き、あなたをほめたたえますように。そしてあなたのさばきが私の助けとなりますように。

再び主への賛美へと導かれています。初めに主が助けとなり、次に主が救い、それから主が自分の魂を生かしてください。それで主をほめたたえています。私たちはいつも、助け主なる聖霊の助けを受けて、喜んでいます。次に、私たちはとこしえの救いを慕っています。キリストが罪から私たちを救い、私たちに栄光の姿に変えて救いを完成してくださることを慕い求めています。そして、私たちの魂を生かすのです。

119:176 私は、滅びる羊のように、迷い出ました。どうかあなたのしもべを捜し求めてください。私はあなたの仰せを忘れません。

これが詩篇 119 篇の最後の言葉です。非常に興味深いですが、迷える羊、そしてその羊を捜し求めてほしいということで終わっています。なぜでしょうか？詩篇のそれぞれの巻の終わりは、第二巻を除くと、イスラエルが迷い、虐げられているその姿で終わって、それで頌栄で終わります。例えば、第三巻の最後 89 篇の最後はこうなっています。「50-52 節 主よ。心に留めてください。あなたのしもべたちの受けるそしりを。私が多くの国々の民のすべてをこの胸にこらえていることを。主よ。あなたの敵どもは、そのようにそしり、そのように、あなたに油そそがれた者の足跡をそしりました。ほむべきかな。主。とこしえまでも。アーメン。アーメン。」

旧約聖書全体が、そのように暗い影を落とした口調で終わります。マラキ書の最後は、「それは、わたしが来て、のろいでこの地を打ち滅ぼさないためだ。(4:6)」という言葉で終わっています。それは、私は新しい契約において初めて、これらの旧約聖書で語られていることの成就があるからだと思います。滅びる羊については、まさにイエス様が、「イスラエルの家の滅びた羊」のためにご自身が来たことを話されました(マタイ 10:6)。イエス・キリストにあつて、詩編 119 篇も成就するのです。「ヨハネ 1:17 というのは、律法はモーセによって与えられ、恵みとまことはイエス・キリストによって実現したからである。」詩篇の著者は、「あなたのしもべを捜し求めてください。」と言っています。既に主を知っている僕であっても、迷い出てしまうことがあります。これは私たちの祈りでもあるでしょう、私たち神に仕える者たちも、どうか迷い出る時に捜し求めてください、と祈ります。